

**株式会社ウェッジホールディングス  
2009年9月期(第8期)  
事業説明会**

2009年12月28日

**株式会社ウェッジホールディングス  
代表取締役社長 田代 宗雄**

# はじめに

## ■ 説明者(田代宗雄) 略歴

- ◇1972年生まれ 大阪府 出身(37歳)
- ◇1997年3月 大阪大学 文学部 卒業
  
- ◇1997年4月 株式会社パソナ 入社
  - ◆2001年4月 NOC日本アウトソーシング株式会社 転籍
- ◇2002年12月 株式会社ワークスアプリケーションズ入社
  
- ◇2007年10月 アジアパートナーシップファンド(APF) 入社
- ◇2007年12月 当社代表取締役専務
- ◇2008年5月 当社代表取締役社長(現任)

## ■ 当社の概要

- ◇ ◇会社概要
- ◇ グループ沿革と過去2期の活動
- ◇ 事業セグメント
- ◇ ウェッジHDグループ各社

## ■ 事業セグメント毎のハイライト

- ◇ コンテンツセグメント 主要事業
- ◇ コンテンツ事業の概況
- ◇ 物販セグメント 主要事業
- ◇ 物販事業の概況
- ◇ 投資育成・ファイナンスセグメント主要事業
- ◇ 投資育成事業の概況
- ◇ ファイナンス事業の概況
- ◇ グループリースの事業について
- ◇ グループリースの地方展開

## ■ 2009年9月期経営成績のまとめ

- ◇ 連結・単体経営成績
- ◇ 業績推移① 売上高・営業利益
- ◇ 業績推移② 経常利益・純利益
- ◇ その他指標について

## ■ 今後の事業方針と見通し 株主還元方針について

- ◇ 投資育成から新たな企業グループ創造へ
- ◇ 2010年9月期 連結業績予想
- ◇ 2010年9月期 単体業績予想
- ◇ 当社グループの課題
- ◇ 株主還元についての方針

# 当社の概要

- **会社名: 株式会社ウェッジホールディングス**  
**(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)**
  
- ◇ **設立: 2001年10月**
- ◇ **資本金: 1,480,140,900円 (※2009年12月現在)**
- ◇ **上場市場: ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」市場**
- ◇ **代表者: 代表取締役社長 田代 宗雄**
- ◇ **本社所在地: 東京都千代田区神田錦町一丁目1番地**
- ◇ **グループ従業員数 306名 (2009年9月末現在)**

# グループ沿革と過去2期の活動

- 4 -

- ◇ 2001年10月 株式会社ブレインナビ設立
  - 編集プロダクション事業を中心に展開
- ◇ 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場に株式上場
  - 翌年に向け、投資組合組成、投資会社設立と、数社の買収でグループを形成、3事業体制に
- ◇ 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行
  - その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
  - 業績不振で3年連続の赤字が続く
- ◇ 2007年9月 第三者割当増資によりAPFグループが筆頭株主に
  - 2007年9月 APFグループの明日香野ホールディングスが40%取得、筆頭株主に
  - 2007年12月 経営体制刷新。既存のマネジメントに加えAPFグループが経営に参画。

## 【2008年の活動】

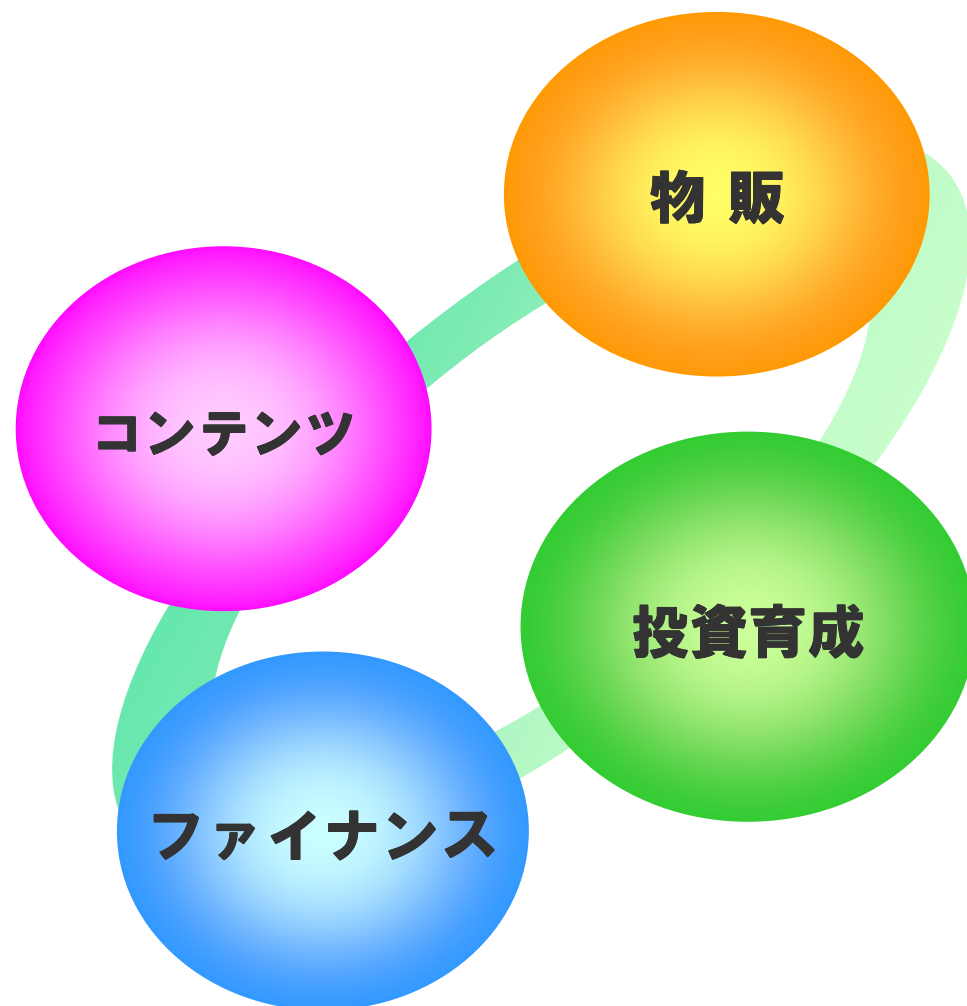
### ◆黒字転換に向け改革に尽力

経営管理機能の強化  
グループ会社・事業の再編  
新たな収益事業の開発開始

## 【2009年の活動】

### ◆不況への対処と新たな成長へ挑戦

財務基盤の強化  
不採算事業の圧縮と固定費削減  
投資と子会社増で事業拡大



## ■ コンテンツ事業

- ◇ カードゲーム事業
- ◇ 編集・出版事業
- ◇ 映画・音楽関連事業

## ■ 物販事業

- ◇ キャラクター関連商品事業
- ◇ 商品企画開発

## ■ 投資育成事業

- ◇ 国内外への投資事業
- ◇ 投資組合等の運営

## ■ ファイナンス事業

- ◇ タイ国内 オートバイリース事業

新たにファイナンス事業が加わり4セグメント体制に

# ウェッジHDグループ各社



# 各事業セグメント毎のハイライト

# コンテンツセグメント 主要事業

- 8 -

## カードゲーム事業



カードゲーム  
『Chaos -character operating system-』



カードゲーム  
『アリス×クロス』

●トレーディングカードゲームの  
企画・制作コンサルティング

## 編集・出版事業



ブレインナビ  
コミックス  
『トランスフォーマー  
スターゲート戦役』

ブレインナビ  
コミックス  
『ロックマン・  
ギガミックス』

●エンターテインメント領域の  
編集プロダクション・出版事業

## 映画・映像・音楽 関連事業

●小規模作品  
を中心に映画  
・映像作品を  
製作、DVD  
パッケージなど  
の流通

DVDシリーズ  
『日本一怖い話』



コリー・ヤーキン  
デビューアルバム  
『コリー・ヤーキン』

●欧米音楽アーティストの国内プロ  
デュース、CDパッケージなどの流通

## コンテンツ事業

- ◇ 売上高 1,170百万円(前年比 16.2%減)
- ◇ 営業利益 44百万円(前年比 71.8%減)

### ■ アニメーション・映画等、映像系事業の環境悪化に対処

- ◇ 映画作品を中心にした2008年製作の作品の回収は不調。投資を抑制し、回収重視に転換。
- ◇ アニメーション事業・タレント事業など不採算事業の圧縮を実行。

### ■ 高収益のカードゲーム事業は引き続き堅調

- ◇ 主要作品は堅調に推移、収益に大きく貢献
- ◇ 第2四半期からは、新たに2シリーズのカードゲーム制作を開始  
2010年9月期での収益貢献拡大を期待

# 物販セグメント 主要事業

- 10 -

## 小売事業

- 「ブリストー」ブランドでのフィギュア・トイなどのキャラクター商品販売



<http://www.blister.jp/>

- 「ブリストー」店舗およびECサイトでの販売を展開

## 卸売事業



- 「ブリストーダイレクト」ブランドでのキャラクター商品の正規輸入代理店事業

## 「たのみこむ」事業

- 商品リクエストサイト「たのみこむ」の運営、企画商品通販

<http://www.tanomi.com/>

- OEM商品企画・販売事業

U.S. AIR FORCE  
SETAGAYA BASE  
TOKORO.G.



「たのみこむ」開発商品  
「所さんのDAITAI時計 Ver.2」

## 物販事業

- ◇ 売上高 652百万円(前年比 8.0%減)
- ◇ 営業利益 ▲15百万円(前年は▲115百万円)
  
- **米国の不況の影響で商品入荷大幅減が響き計画未達**
  - ◇ 米国キャラクター商品の取り扱い高が多く、不況により米国メーカー発の多くの商品が発売延期・停止に。販売機会が大幅減少。
  - ◇ OEM事業での売上で盛り返し、前期比で赤字幅は大幅縮小
  
- **固定費削減、体制再構築で今期は営業黒字に転換へ**
  - ◇ 今後も環境好転は限定的と考慮し、2009年9月期中から営業力強化と固定費削減に注力。2010年で黒字転換を目指す。

# 投資育成・ファイナンスセグメント 主要事業

## ファイナンス事業

- タイ王国 一部上場企業  
Group Lease PCLによるオートバイリース事業



◆グループリース社概要  
名称 Group Lease Public Company Limited  
設立 1986年5月  
資本金 270百万バーツ  
代表者 Smart Chiradamrong



## 投資育成事業

- 国内外の優良投資  
案件への投資活動
- その他の短期投資・  
融資事業

## 投資育成事業

- ◇ 売上高 80百万円(前年比 144.9%増)
- ◇ 営業利益 3百万円(前年比 84.3%減)
  - 持分法適用利益 145百万円
  - 有価証券評価益 35百万円

### ■ シンガポールに投資法人を設立

- ◇ 2月、シンガポールにてエンジン・ホールディングス・アジアを設立、海外投資のインフラとして新たな投資拠点に

### ■ 複数の短期投資が堅調に収益貢献

- ◇ APFグループと協力して展開する投資案件は堅調に推移  
2009年9月末には有価証券評価益でも利益貢献

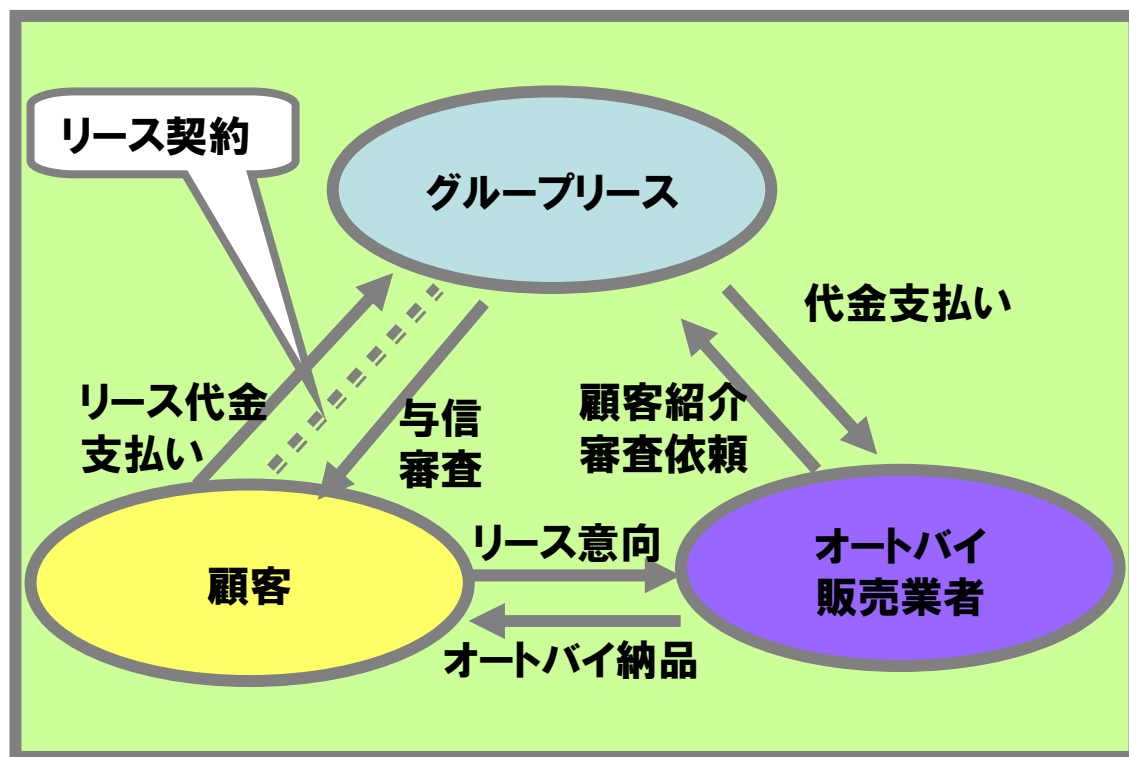
## ファイナンス事業

- ◇ 売上高 514百万円(前年比 ー)
- ◇ 営業利益 192百万円(前年比 ー)

### ■ 第4四半期から連結子会社化、売上・利益の大きな構成要素となるグループの中核事業に

- ◇ 2009年は経済危機の影響を考慮し与信管理を徹底、審査の厳格化により、売上拡大よりも不良債権を抑制する方針に
- ◇ 堅実な施策が奏功、営業利益率約37%と高収益体質を維持
- ◇ 経済環境改善とともに再び契約規模拡大に備える

- タイ国内で高収益のオートバイリース事業に特化
  - ◇ 一般消費者・オートバイタクシー業者等に対するリースを提供
  - ◇ タイ国内シェア4位。バンコクを中心に堅実経営。



## ◆グループリースの事業の強み

### ①高収益性と成長余地



リース事業の中でもオートバイは特に高収益商材。かつ若年人口の多いタイでは今後も着実に利用者増加が見込まれる。

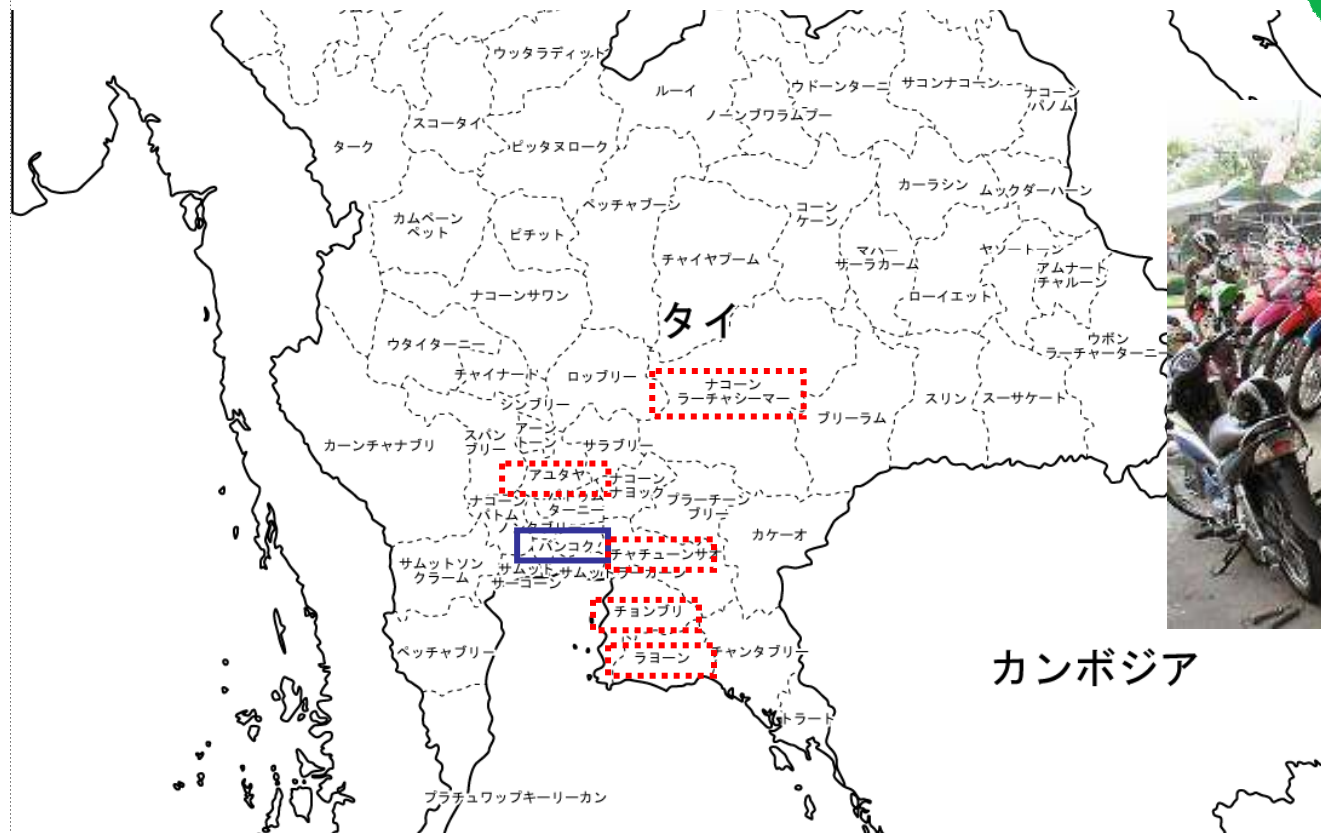
### ②与信管理と回収ノウハウ

業界共有の与信情報に加えGL独自のデータベースによる与信管理システムに強み。不良債権化は中古バイクから回収、独自ルートでオークション販売。

# グループリースの地方展開

## ■ 首都バンコク中心の営業地域から中堅地方都市へ拡大中

-  現在の営業活動の中心である首都バンコク
-  営業活動を開始している中堅地方都市



カンボジア

<グループリース社>  
タイ一部証券市場上場 コード GL  
ホームページ（英語）  
<http://www.grouplease.co.th>

**2009年9月期  
経営成績のまとめ**

# 連結・単体経営成績

- 18 -

## ■ 連結経営成績

(単位:百万円)

	2009年9月期累計	(参考) 2008年9月期	増減	対前年比
売上高	2,417	2,139	278	113.0%
営業利益	137	62	75	221.0%
経常利益	322	146	176	220.5%
当期純利益	204	81	123	251.9%

## ■ 個別経営成績

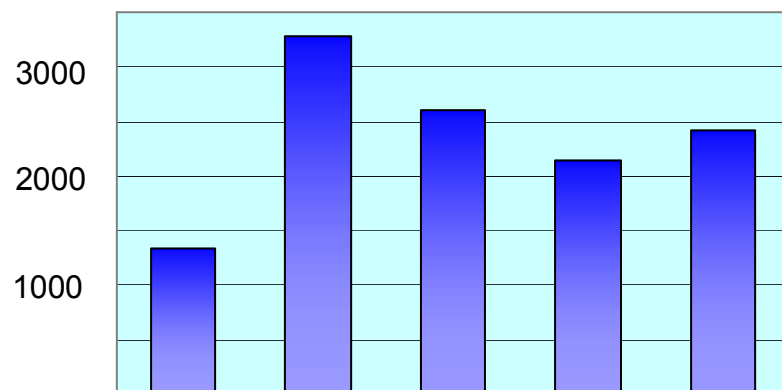
	2009年9月期累計	(参考) 2008年9月期	増減	対前年比
売上高	722	898	-176	80.4%
営業利益	97	90	7	107.8%
経常利益	114	104	10	109.6%
当期純利益	79	97	-18	81.4%

# 業績推移① 売上高・営業利益

- 19 -

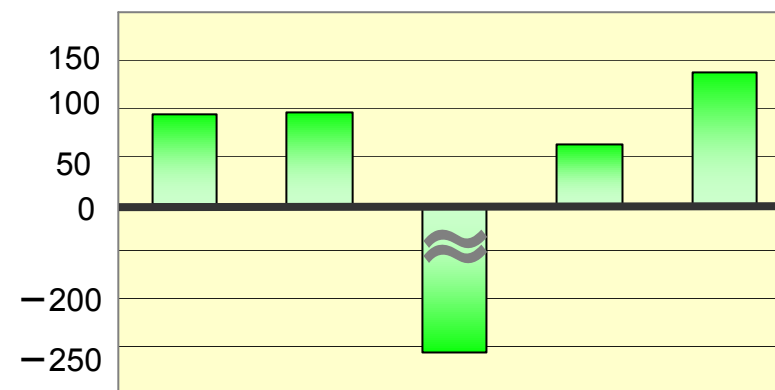
(単位:百万円)

## 【売上高】



	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
売上高	1,337	3,277	2,593	2,139	2,417

## 【営業利益】

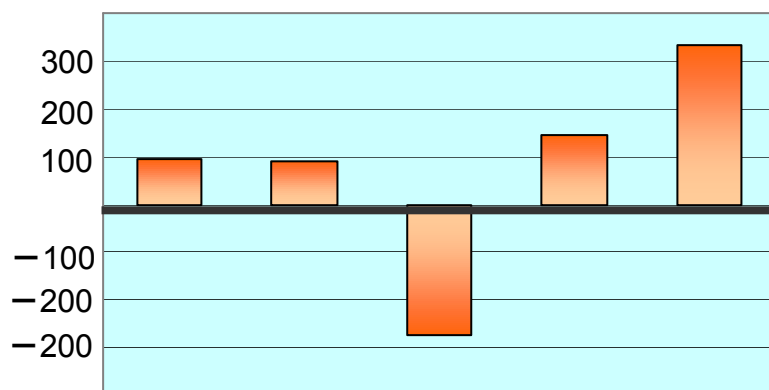


	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
営業利益	94	96	-265	62	137

- グループリースの収益が大幅に貢献、売上高は増加に転じる

# 業績推移② 経常利益・純利益

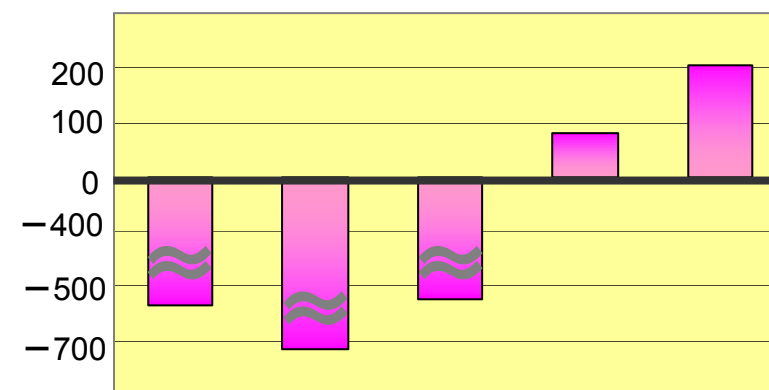
【経常利益】



	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
経常利益	94	92	-273	146	322

【税引後当期純利益】

(単位:百万円)



	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
当期純利益	-534	-717	-525	81	204

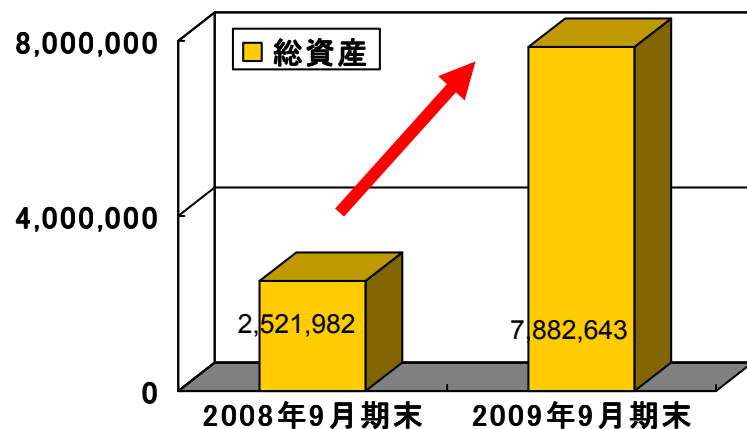
- 投資育成事業の投資有価証券評価益も増益幅を広げる

# その他指標について

- 21 -

## 【総資産の増加】

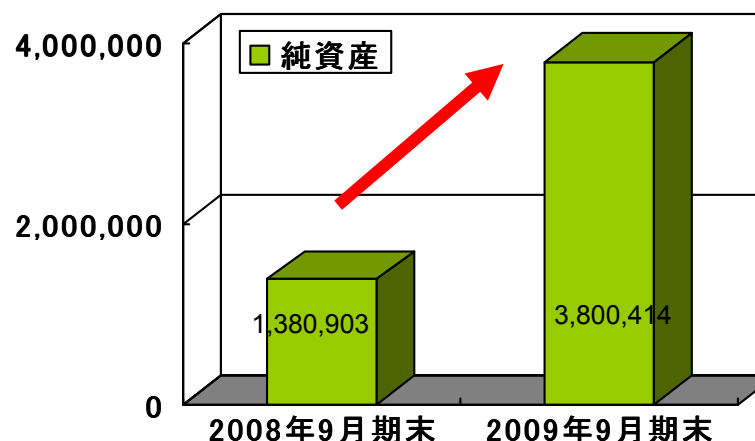
(単位:千円)



グループリースの連結子会社により  
対前期末比312.6%と大幅な拡大

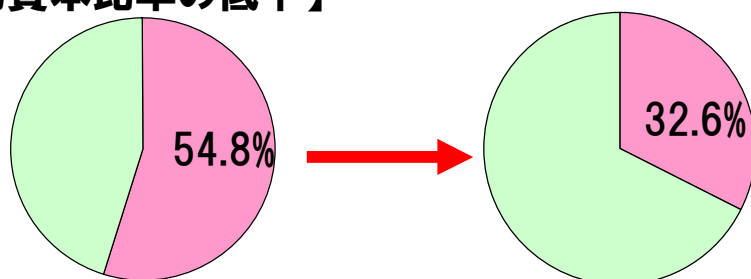
## 【純資産の増加】

(単位:千円)



3月の増資および社債からの転換が進み  
対前期末比275.2%と大幅な拡大

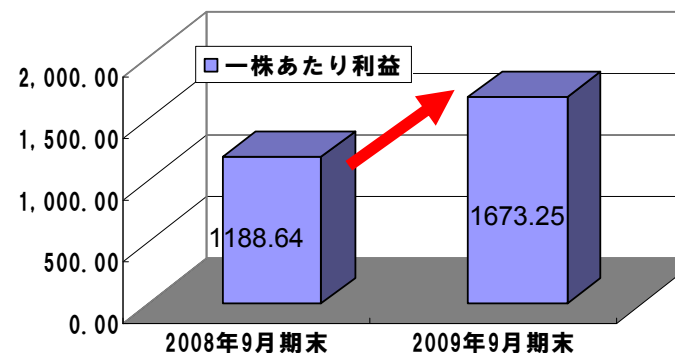
## 【自己資本比率の低下】



グループリース社の連結により  
前期比末54.8%から32.6%へと低下するも  
リース業の特性からは手厚い自己資本を維持

## 【一株あたり利益の増加】

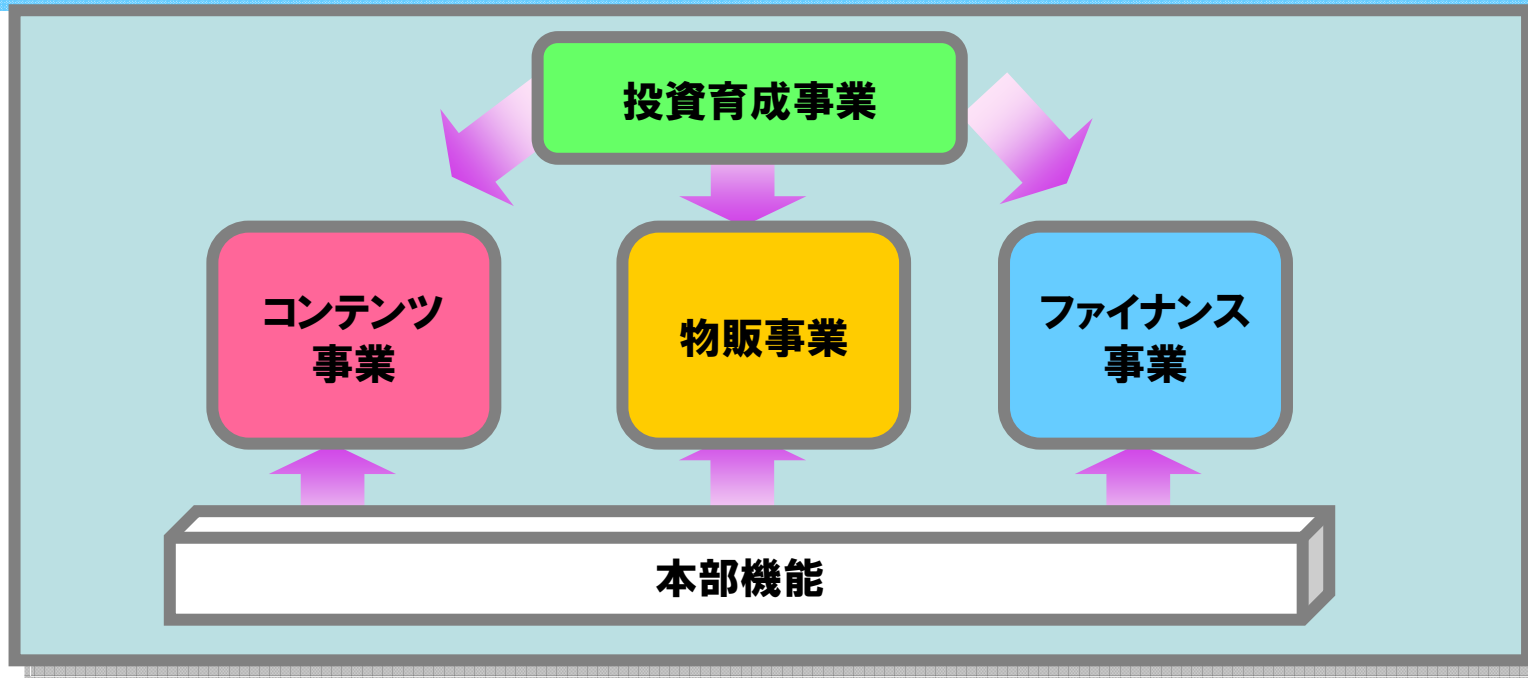
(単位:円)



一株あたり利益は前期比で約40.7%の増加

# 今後の事業方針と見通し 株主還元方針について

# 投資育成から新たな企業グループ創造へ



- 投資育成事業を「成長エンジン」として事業領域拡大を志向
  - ◇ 日本国内・東南アジア両地域で、事業機会を模索
    - ◆ 東南アジアの成長性が期待できる事業
    - ◆ 日本国内で経営支援により収益性が期待できる事業
    - ◆ 既存事業とのシナジーが期待できる事業
- グループを支える支援機能を継続強化
  - ◆ 本部からの経営支援・シナジー創出を通じて、より強固なグループ経営体制の確立を目指す

# 2010年9月期 連結業績予想

— 24 —

(単位:百万円)

	2009年9月期実績	2010年9月期予想	増減	対前年比
売上高	2,417	4,200	1,783	173.8%
営業利益	137	720	583	525.5%
経常利益	322	700	378	217.4%
当期純利益	204	250	46	122.5%

- ファイナンス事業での連結効果が通年寄与し、業績は急拡大を見込む
  - ◇ グループリースの収益取り込みにより、特に営業利益・経常利益は前期比で大幅増益へ
- コンテンツ事業・物販事業は緩やかな回復を見込む
  - ◇ 2009年期の固定費削減の寄与と減価償却費用の減少が増益要因に
- 投資育成事業は堅調な推移を見込む
  - ◇ 事業の性質上、大型案件の成約時には業績の修正要因に

連結の通年寄与で売上・利益とも拡大  
最高益の再更新を予想

# 2010年9月期 単体業績予想

— 25 —

(単位:百万円)

	2009年9月期実績	2010年9月期予想	増減	対前年比
売上高	722	700	-22	97.0%
営業利益	97	70	-27	72.2%
経常利益	114	110	-4	96.5%
当期純利益	79	100	21	126.6%

## ■ 売上高は前期並みを予想

- ◇ 出版事業など新規事業では利益体質の確立を優先。前期比売上減に
- ◇ カードゲーム事業では堅調な伸びを予想

## ■ 営業利益・経常利益はやや減少予測

- ◇ グループ支援機能の再強化、カードゲーム事業での人材育成など  
先行投資の結果、販管費増加を見込む

## ■ 純利益は着実な増加へ

- ◇ グループ会社の業績改善から、子会社への貸倒引当金の戻し入れ  
益計上を見込む

グループの支援・育成に注力して成長へ

## ■ 事業規模拡大に伴う資金需要への対応

- ◇ 今後も事業の成長に伴い投資育成事業を初めとして資金需要は拡大傾向
- ◇ 財務の健全性を維持しつつ、株主利益の確保を図る資金調達の多様化を目指す

## ■ 人的資源の継続的強化、登用

- ◇ 事業規模拡大に伴い人的資源の強化が課題に
- ◇ 外部からの人材獲得とともに、内部の人材育成・登用も推進予定

# 株主還元についての方針

- 27 -

- **業績の伸長を反映した株価回復を第一に**
  - ◇ 長期保有株主様に対しまずは株価回復での貢献を
  - ◇ 中長期で業績回復に基づく企業評価の改善を期待
  - ◇ IRについても体制整備を継続、強化へ
  
- **4期ぶりに復配、今後は業績に応じた還元拡大を目指す**
  - ◇ 2009年9月期は4期ぶりに復配へ
  - ◇ 2010年9月期も現時点では1株あたり100円を配当予定
  - ◇ 基本方針として事業成長、安定化と利益成長に見合った株主還元を積極的に実施する方針

# ご清聴ありがとうございました

弊社IRに関するお問い合わせ先

株式会社ウェッジホールディングス  
経営管理本部

TEL: 03-5217-0721

FAX: 03-5217-0722

[wedge-ir@wedge-hd.com](mailto:wedge-ir@wedge-hd.com)

弊社ホームページ: <http://www.wedge-hd.com/>

※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保証するものではありません。